

グローバル・メディア研究科（博士後期課程）の3ポリシー

【教育の理念】

グローバル・メディア研究科は、駒澤大学大学院の教育の理念のもと、グローバルに発展するメディアの最新動向に精通し、人文・社会科学系または工学系分野における学際的かつ高度な専門知識を有する人材の育成を目指す。この目的のために、人文、社会、経営、経済、政治、法律、そして情報からなる多くの専門分野を組み込んだカリキュラムを編成している。さらに、学際研究を推し進めるため、個々の大学院生の研究テーマに合わせて指導教員と複数の副指導教員が研究指導を行うプロジェクト指導制を採用している。専門分野とその周辺領域をカバーする研究だけではなく、文理の枠を超えて異分野にまたがる研究まで、様々なタイプの学際研究の指導を行う。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

グローバル・メディア研究科は、教育の理念にもとづいた下記3つの能力・知識のいずれかを身につけ、所定の期間在学し、各研究科各専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、「博士（メディア学）」の学位を授与する。

（DP1）分析・提案能力

社会的・文化的影響と情報技術の動向を理解した上で、経営・産業動向などを分析し、メディアの利活用に関して、グローバルな視点に立って提案できる能力。

（DP2）メディアとコミュニケーションの専門知識

企業・団体における情報通信技術の利活用動向を理解した上で、グローバルな視点に立ってメディアとコミュニケーションの社会的・文化的な影響を分析する能力。

（DP3）新サービスの専門的知識

経営・産業動向と各種サービスの社会的・文化的影響を理解し、グローバルな視点に立ってメディア分野の新しいサービスを開発する能力。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

グローバル・メディア研究科博士後期課程では、修士課程に引き続き、（1）経営・産業面でのメディアの利活用、（2）メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響、（3）メディア自体のイノベーション、という3つの側面を有する科目群から構成される教育課程を提供し、研究指導科目を単位化して博士論文の完成に導く。指導教員の研究指導科目だけではなく、研究内容に応じて指導教員以外の教員の研究指導科目も履修が可能である。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、上記 3 つの側面に関する高度な専門知識を身につけ、学際研究のための理論的・実践的基盤を築くために開講する。
- 2) 博士論文指導は、指導教員が中心となりつつも、学際領域に応じて指導教員以外の教員も加わって行う。

2. 教育方法

- 1) 「経営・産業のメディアの利活用」の側面では、グローバル化が進展する産業界、公共団体等の非営利セクター、そして地域社会等、社会全体がメディアとコンテンツの創造的活用によって革新を推進するための方策を考究する。
- 2) 「メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響」の側面では、企業、政府、NPO 等がグローバル展開を志向する際に不可欠な異文化理解を高める教育研究を推し進める。
- 3) 「メディア自体のイノベーション」の側面では、次世代の革新的メディアとコンテンツの制作等に関わる原理、方法と実践を考究する。
- 4) 上記 3 つの各側面、あるいは、複数の側面にまたがる領域で研究を行うには、複数の学問領域を必要とする。このため、必要に応じ、指導教員以外の研究指導科目を複数履修可能とする。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員および研究指導を担当した他教員が、「提出要件」を満たしていることを確認しつつ、進捗状況を把握する。提出された博士論文の審査においては、指導教員を主査、他の教員 4 名を副査とする審査委員が、「学位論文審査基準」に則り厳格に審査する。なお、研究テーマによっては、副査 2 名までを研究科外部から選出する。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、一般的な内容については e ラーニングによる受講とし、専門分野に特有の研究倫理については、各演習プロジェクトにおいて指導する。

3. 評価

グローバル・メディア研究科博士後期課程では、研究科が定める修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の 3 つのポリシーに基づき、個々の講義および研究指導担当者が評価を行うとともに、研究科が定める「修了の要件」および「学位論文の審査基準」に従い、修得単位数、および博士論文の審査結果を踏まえて、研究科委員会で審議する。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	2	1～3	○	○	○	様々な分野の専門的知識を習得するだけでなく、中心的な専門領域を深く理解できるようにする。
研究指導	2	1～3	◎	◎	◎	指導教員を中心とした研究指導のもと、研究に必要な知識と分析能力、基本的な発表能力や論文作成能力を身につけ、最終的に博士論文にまとめる。
博士論文	—	—	◎	◎	◎	研究の集大成として、自ら設定した研究テーマに関し、独創的な観点から、新たな知見を示す論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として身に着けるべき研究倫理について、様々な分野で必要な情報を提供する。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

グローバル・メディア研究科博士後期課程は、学際的なアプローチで幅広くメディアとコンテンツの本質を理解するための専門的知識を身につけ、グローバル社会へ貢献するという目的意識のもと、独創的な研究を主体的に行う意欲を持つ入学者を求める。

また、入学希望者に対しては、広い視野と精深な学識を授けて各人の様々な能力を伸ばし、その成果を社会に発信できる先導者を育成するという駒澤大学大学院全体の教育理念、ならびに、グローバル・メディアに関する学際領域における人文・社会科学系または工学系専門知識を深めた人材を養成するという研究科修士課程の目的的理解の上に立って出願することを期待する。

以上のような理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、多様な入学者選抜を実施し、多面的・総合的な視点によって審査を行う。

1. 求める学生像

(AP1) メディアとコンテンツに関する研究に必要な基礎知識を有する。

(AP2) 今日の世界のビジネス、文化、社会等の動きを理解するために必要な基礎的な社会科学の知識を有する。

(AP3) 国内外の情報に接して理解するために必要な語学力を有する。

(AP4) 学際的で先端的な学術分野に挑み、かつ、国内外で主体的に活動する強い意欲を有する。

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験 (学内推薦入学試験を含む)	出願書類	○	◎	◎		修士レベルの基礎的な知識があり、英語能力を持ち、情報システムの操作能力を一定程度身に着け、メディアに関心を持つ者に対し、研究に必要な専門知識を有するかどうかの選抜を行う。英語力をみるための外国語試験、および、メディアに関する専門科目試験を実施する。また、試験結果を踏まえ、面接を行う。また、学内推薦入学試験の制度があり、出願書類審査と面接審査を行っている。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎			
社会人特別入学試験	出願書類	○	◎	◎		主に大学卒業後に専門的な実務経験を積んでいる者、または、大学卒業後一定年数経過した者で、メディアに関心を持つ者を対象とする。特に、これまでの実績を重視する。メディアに関する小論文を課したのち、面接口試を行なう。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接口試	◎	◎		○	
外国人留学生入学試験	出願書類	○	◎	◎		外国籍を有し、大学院教育を受けることを目的に来日している受験生を対象とする。母国で受けた教育について書類選考で明らかにし、メディアに関する専門試験を受けたのち、面接口試で研究計画を精査する。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接口試	◎	◎		○	